

2019年度 第二回幼児教員会議 議題書 兼 議事録

日時 10月26日 12時30分～3時

場所 B307 さくらんぼ

出席 幼児教員：畑口、ムレイティ、鈴木、荻野（議題1～3）、ルソー、サーファロフ
役員：井澤（敬称略）

Invitees：改善係：登

参考資料：

1. オープンハウス開催へのプロジェクトスコープ
2. 幼児ワーク改訂提案－改善係

議題

1. 教員継続確認
2. 幼児ワークについて（参考資料2）
3. 折り紙などのセンター管理の教材をクラス別教材費で出してもらってはどうか
 - 色やサイズがクラスによって異なるため
4. デジタル意見箱の設置の連絡
5. 授業毎回5分会議を行ってはどうか－やってもオッケー－3学期から（授業後の5分）
6. 幼児1のクラスを増加した際のフィードバック
7. オープンハウスについて（参考資料1）

議事録

1. 教員継続確認
 1. 畑口（継続）、ムレイティ（誰もいなかったら継続）、鈴木（継続しない-産休）、荻野（継続）、ルソー（継続）、サーファロフ（継続）
2. 幼児ワークについて（参考資料2）
 - ①ワークの使い方
→ワークは授業用として使う
1文字15回練習ができるプリント使用
 - ②現在のワークに追加するもの
→濁音が一行で書かれたプリント
 - ③現在のワークから抜くもの
→濁音・発音の練習
→「お金」のページはカラー・厚紙をやめて白黒プリント
→幼児2はひらがなは必要な26文字のみを掲載
→幼児2は迷路などのページは使用頻度が低いため不要
→似ている文字
 - ④現在のワークから移動するもの
→厚紙のフラッシュカードを幼児3から2へ
→季節関連のプリントを幼児2から3へ
→似ている文字練習を厳選し幼児3へ
 - ⑤アイデアとして
→厚紙カラーの表紙を厚紙白黒の「塗り絵スタイル」にして経費削減

2020の学習目標として

幼児1では、50文字の視覚的学習はするが、文字練習はなし

幼児2では、週に1文字合計26文字を書きやすい順番に学習

幼児3では、週に2文字ずつ、あ行から順に学習

- a. 1学年1冊（幼児2-3）ずつでワークの校正を進めるという方針になった。
 - b. 表紙のカラー印刷をなしにし、白黒で塗り絵にし、子供たちに色を塗ってもらってはどうかという意見が出た。
 - c. 2学期中にモデル製作を終わらせる方針で決定した。
 - d. 教員側からは、コピー量は変わらないという発言が出された。
 - e. 幼児1にワークを入れるのはどうかという提案には、幼児1の先生は賛成した。
 - 予算の関係で、教材費で保護者から取ってはどうかという意見が出た（\$20程度）
3. 折り紙などのセンター管理の教材をクラス別教材費で出してもらってはどうか
 - a. 役員から、色やサイズがクラスによって異なるため、役員で在庫を確保しても必要な色が教員にとって違い、全てを確保できない。また、使われない色

が長く在庫として保管されると折れたりし、使えなくなる可能性も高いので教員別で購入してもらってはどうかと提案があった。

- b. 教員から、1クラスで必要な数がかなり少ないので、各クラスごとに購入すると高くなり必要な色が購入できない、また使わない折り紙が多く出てきてしまう、と意見があった。
- c. 教員から、毎年、3学期に各教員から希望調査を行い、それに沿って来年度のセンター管理教材を購入してはどうかという提案があった。
- d. 教員から、もし在庫状況を知らせてもらえれば、その色を使うような活動を考えることもできるという提案もあった。
- e. 役員から、資料としてGoogleシートで管理している資材在庫表を共有したら良いのではないかと発言があった。
- f. 3学期に来年度の使用状況の調査、Googleシートの資材在庫表の共有をし、このまま役員が資材を管理するという事で全員合意した。

4. デジタル意見箱の設置の連絡

- a. 改善係より、Googleフォームによる意見箱の設置があることが連絡された。
- b. 教員から、どのような内容のことを書くものなのかという質問に対し、センターの改善に役立つ意見・提案などであるという説明があった。
- c. 誰がその内容を見れるのかという質問に対しては、公開方法を現在開発中。意見を頂いた後の流れとしては、まずは改善係りがまとめ、その後プロジェクト化を行い、運営・取締役と連携し、優先を決めていくと説明があった。

5. 授業毎回5分会議を行ってはどうかー3学期から（授業後の5分）

- a. 役員から、教員間、運営間でのコミュニケーション向上・決定事項のスピードアップのために、毎授業前に教員で集まり、代表を筆頭に一人1分以上は取らない簡単なタッチポイントミーティングをしてはどうかという提案があった。
- b. 教員から、これによってどのような事が改善されるのか、目的は何かという質問に対し、毎授業集まることによる決定や連絡事項のスピードアップ、また毎回の教員会議を短くするという意味もあると説明があった。
- c. 教員から、毎回集まることによって、教員間でのコミュニケーションも高まる可能性はあると発言があった。
- d. 役員から、一人1分以内なので、幼児部では現在は、6分以下になる予定。代表は役員ミーティング（7分以下）に参加してから、その内容も教員ミーティングで話してもらい、最初はタイマーを使って時間通りに始め、時間通りに終わりにする、と説明があった。
- e. 朝は忙しいので、授業後はどうかという意見に対し、役員から、では役員ミーティングを授業前に行い、授業後に教員ミーティングで終わらせても良いと思うと発言があった。
- f. 教員から試しに行って見てどの様な利点があるかを見て見ても良いという発言があり、役員内で役員ミーティングの予定を話し合うので、3学期から始めてみるということで合意した。

6. 幼児1のクラスを増加した際のフィードバック

- a. 今年、幼児1が3クラスの希望幼児がいたが、が2クラスで行ってきた中で、収入源である幼児のクラス増加は今後視野に入れていきたいので、3クラスで行った年の難しかった点などのフィードバックを役員から教員に聞いた。
- b. 運動会の赤白分けがクラス別でできない（色分けしなくてもいい等の対策が必要）
- c. 発表会の席がないーが発表舞台自体は楽かもしれない
- d. 各行事が人数が多くなるので大変であるーこれについては、運営の方が大変だったので3クラスから2クラスにしたのではないかと質問があった。役員から、役員も人数が多くなるにつれて仕事が増えるのでその分大変ではあるが、教員の方のフィードバックを聞きたいと発言があった。
- e. 役員から、行事以外に大変なことはあったかという質問に対し、教員からもし行事がうまくいくなら3クラスでも良いという発言があった。
- f. 改善係から、幼児全3学年を3クラスにしてはどうか、という提案があった。すると運動会での色分けも3色で分ければ良いし、学年別で均等になる。今年すでに1クラスできるほどウェイティングリストに載っている幼児がいるので、来年の幼児2も3クラスにできるはずである。幼児3は3クラスにし、今のウェイティングリストの幼児を入れると各クラス人数は少なくなるが、幼児の人数自体は多くなり、収入は多くなる。
- g. 教員から、3クラスになっても正規アシスタントは2人もらえるのかという質問があり、役員から幼児が10人以上ならおそらく2人入れれるが、確認の必要があると発言があった。
- h. 教員から、教室数は足りるのかという質問に対し、役員から、3学年全てが3クラスになったら恐らく足りない所以对策を考えなくては行けないと発言があった。
- i. 役員から、このフィードバックをまた役員全員と共有し、予算を練り直さないと来年の予定はまだわからないと発言があった。

7. オープンハウスについて（参考資料1）

- a. 教員から目的についてもう少し説明してほしいという質問に対し、役員から、役員からはオープンハウスとして新しく入る保護者をセンターに呼び、センターの運営形態、意義、保護者の義務（係や運営役員）、家での日本語サポートの必要性についてなどを説明し、入る前に理解してもらうこと、入る前にセンターの場所が分かり、センターの授業の様子を実際に見てもらうことも目的としていると説明があった。
- b. 教員から、説明会だけでは来る甲斐がないのではないかと、体験授業をしてはどうか、という提案があった。
- c. 教員から、体験授業があれば体験費を請求でき収入源になるのではないかと意見があった。（\$5ー\$10ぐらい）
- d. 40人以上来る可能性があることを考えると、体験授業は2クラスに分けて行わないと、子供が集中できない為、成功しないという意見があった。恐ら

く移動を入れて30分時間を取り、授業は15分ぐらいになると思うという意見があった。

e. 話し合いの結果、

- i. 10:15ー受付
- ii. 10:30-11:00 保護者向け説明会
- iii. 11:00-11:30 体験授業(2部屋制)

なら体験もできるのではないかと提案された。

他の幼児の教員も30分ぐらいならおやつの時間を利用し、アシスタントとして参加できるという提案があった。

役員から、このフィードバックを担当の役員とも相談し決定事項を連絡すると発言があった。

その他協議項目

1. バザーに幼児3参加(提案)

- a. お金の使い方を教えるためにワークに厚紙でお金の印刷が付いているが、どのように活用されているかという改善係からの質問に対して、バザーに本物もしくは作ったお金で幼児3の子供達が参加できたら、さらに良い理解につながるのではないかと提案がされた。
- b. 次のバザーの際に考慮すると役員から発言があった。

2. ひなあられ、柏餅の廃止について一代用で食べれる物をあげられないのか?

- a. 教員から、ひなあられや柏餅の廃止に対して、子供達は楽しく体験していた為、特に記憶に残る食べ物の行事から食べ物の配布をなくしてしまうのは残念であり、何か他のもので代用できないのかという意見が出された。特に子供達は食べ物があると、行事が記憶に残り、日本文化への理解と思い出が強調されるので、予算にとらわれるばかりではなく、何が日本文化継承に貢献しているかをもう少し考えてもらえると嬉しいという意見も出された。
- b. これに対して、代用できる食べ物も考慮されたが、行事内容に見合ったもので、購入(輸入)できるものの案が出てこず、廃止になったと説明があった。